

巻頭言



和歌山県知事 仁坂 吉伸

コロナ後を見据えた和歌山県の国際交流

新型コロナウイルス感染症の発生を契機として、各自治体における国際交流は大きく変化しました。和歌山県も渡航制限が課された直後は、友好姉妹都市を含めた関係都市とのさまざまな分野での交流や事業を延期しておりましたが、現在は、オンラインを最大限に活用することにより、ポストコロナ時代に向けた新しい国際交流を展開しております。

昨年は、「わかやま国際ネットワーク」という事業を立ち上げ、海外県人会と県内小中高等学校 11 校をオンラインでつなぎ、日本文化の紹介や移民に関する事前学習の発表、県人会によるバーチャルホームステイ体験などを通じて、移民の歴史や異文化への理解の深化に取り組みました。これまで築き上げてきた県人会との関係を更に発展させることにより、2023 年に開催予定である「第 2 回和歌山県人会世界大会」のリアル開催に向けた機運醸成という、コロナ後の人々の往来を見据えた取り組みとなっています。

また、今年 1 月には、中国四川省とオンライン締結式により友好県省提携議定書を締結しました。当県と四川省は、白浜アドベンチャーワールドと成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地が 1994 年から「ジャイアントパンダ日中共同繁殖研究」による草の根の交流を実施していることを契機として、コロナ禍の中の 2020 年 3 月に交流をスタートしました。往来ができない中でもオンラインにより青少年を中心とした交流を着実に重ね、一步一步友好の歩みを進めたことで、今回の議定書締結に至りました。今後、四川省とは、コロナ後のインバウンド需要の回復を見据え、観光の分野においても積極的に交流を展開していく予定です。

さらに、在住外国人支援強化のため、外国人サポートメールの配信も開始しました。本メールは、新型コロナウイルス感染症の不安が高まる中、本県に住む外国人の方にとって必要となる情報をやさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語の 5 言語に翻訳して届ける支援策であると同時に、地震等の災害時における迅速な情報配信ツールとなっています。

まだしばらくの間、往来の制限などコロナ禍によるさまざまな制約は続くものと思いますが、このコロナ禍における国際交流は、ポストコロナ時代に向けた種まきであります。コロナが収束した際、活発な人的往来による国際交流の大きな花を咲かせるため、当県では、引き続き、オンラインを最大限に活用しながら、コロナ後を見据えた各種交流や在住外国人支援などの事業を着実に実施し、ポストコロナ時代に挑んで参ります。